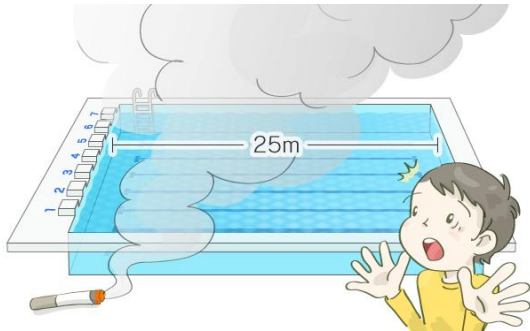


週刊 タバコの正体

タバコの煙は見えないのにニオイを感じる事がありますよね。これはタバコの煙は予想以上に広範囲に広がるからなのですが、タバコ1本で25mプールいっぱい分ぐらいになるそうです。

そんなに広がるとなると、家の中でタバコを吸うと家族は確実に受動喫煙をしてしまいます。下のグラフはそんな家庭の子どもが吸い込んだ煙の状況を調べた結果ですが、喫煙者がいない家庭の子どもに比べ最大で15倍にもなっています。



するとその結果、赤ちゃんが突然死亡するケースや肺炎、気管支炎などにかかる確率が高くなるのです。

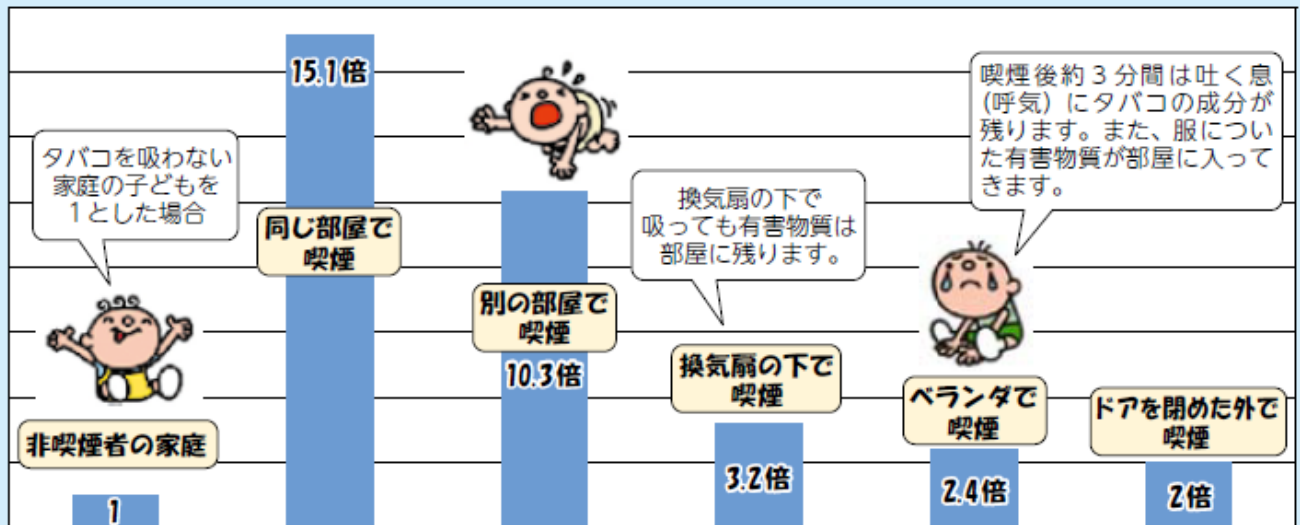
皆さん、自分自身のためにはもちろんですが、未来の自分の子どものためにもタバコを吸い始めないでください。

「mamatenna」サイト～子どもを受動喫煙から守ろう～より

産業デザイン科 奥田 恭久

子どもがうける受動喫煙の影響

(尿中コチニンの量)



(Johansson,A.et.al.Pediatrics, 2004)

子どもの前でタバコを吸うと...

- 赤ちゃんが突然死んでしまう病気 (SIDS：乳幼児突然死症候群) にかかる割合
 - 両親共に喫煙者の場合 **4.7倍**
 - 親の一人が喫煙者の場合 **1.6倍**
- 肺炎・気管支炎にかかる割合 **1.5倍～2.5倍**
- 気管支ぜんそくにかかる割合 **1.5倍**
- 中耳炎にかかる割合 **1.2倍～1.6倍**



(松崎道幸, 臨床科学, 1998)